

うらばなし⑨

「1人ずつがステータスを持ってこの世界で生きていきたい」

「僕らは役者だからこそ、ストーリーを重視しました。」

石山 募集期間(5/1~9/28)は、町の景色が1番美しく見える時期だと思いました。
CD でもね、紅葉もまた綺麗なんですよ(笑)

武田 第3回はできれば、シーズン違いの絵が取れるようになるといいですね。

土井 年間通して作品撮れると、すごく良い町だなってなる。

武田 朝、見た山もめちゃ綺麗でしたし。

土井 それこそ、都会に疲れた人が休みに行くのにうってつけだと思います。

石山 川の流れもすごく綺麗で。

土井 休みの日、川にめっちゃ入るなって。あんな川遊びしている町見たことない。

石山 溪流釣りしてお父さんたちも印象的で。きっと釣れるんだろうと思いました。

シュ 改めて、愛川レッドカーペットを振り返ってみていかがでしたか。

土井 OR→Pのメンバーそれぞれが成長できた映画祭でした。急ピッチな撮影で集中できたのもあって、それぞれが評価される、個性の出た作品を作れたなど。

その中で、僕の作品が最優秀賞を獲れたことは、OR→Pの作品が、外に出しても評価される作品なんだなって実感を得られました。愛川町を初めて知ったんですけど、ロケ地としても優秀な印象を受けました。やって良かったです。

石山 作品が評価してもらえた実感につながった一つの理由が、YouTubeに公開して応募するという形だったことです。映画祭って関係者の人にしか触れられず、1回応募してしまうとそれ以外に出せなかったり、色々な理由で世界から消えなければならないことが多いんです。愛川レッドカーペットは色々な人の目に触れる機会が増えて、反響もあるから、実感につながる。良い映画祭に参加させていただいたと思います。僕達からすると「フィルムコミッション」の立場である皆さんと、1からやり取りをしていくことも、ほとんど未経験に近かったんですけど、歓迎してくれる雰囲気もすごく感じられて、最初から最後までお世話になった映画祭かなって。忘れられない体験になりました。

松下 初めて作品を撮れたら、それが愛川町だったのがとても良かった。だからまた、愛川レッドカーペットに応募できたらいいなって思います。

武田 ロケ場所を町で指定していただけるのがすごく大きかった。僕たちがこんな作品を作りたいって思った時、場所の問題がネックになるんです。逆に、こういう場所があるよ、こういう場所どうですかって、ホームページで紹介していただけると、このロケ地だったらこういう作品撮れるよねって意欲的に取り組めました。実際にやってみると、場所があるから伝わるという状況もあるし、じゃあ、もっとストーリーも作らないといけない、お芝居ももっとしっかり作らなきゃいけないって、自分の目標にもつながってきた部分もありました。

石山 でも、テーマを設けている映画祭ってあまり無いですね。

CD 「愛」がテーマっていうのは、一生外さないかな。愛川町だから。

土井 品質の高い「愛」を描く作品が集まれば、コンテンツとしては面白いですね。

CD 「愛を描く」じゃないけど、「愛」って生きていることがそもそも「愛」だって考えることもできるし、「にちじょう」も、「愛」っていわれたら「愛」だなど。優しさとか思いやりとか、良い人とか…色々な見方ができる。

石山 今回は、あなたの思う「愛」を表現してくださいって募集要項に書いてあったので、自分なりの「愛」をふつけた結果ですから。次はひねろうかって感じです。

土井 僕らは役者だからこそ、ストーリーを重視しました。募集要項には、PR動画は求めないとはっきり書いてあったので、きっと作品としてのストーリーを求められているとのがありました。

CD PR動画なら、自分たちがお金さえ出せば作りたいって人はたくさんいます。そんなコンテストをやってもしょうがない。皆さんの力を借りれば、愛川町の魅力はすっと残るというのかな、そんな風にしたいと思っています。

石山 「にちじょう」は、再生回数がすっと伸びています。

CD 伸びていきましょう！1万回ぐらい！

土井 短編映画が1万回ってなかなかないですよ(笑)

シュ OR→Pとして、今後の目標は？

土井 また作品を作りたいです。1人ずつがステータスを持ってこの世界で生きていきたいので、賞を獲れるような作品を作って、知名度が1人ずつ上がって、売れていくたい。OR→Pでの活動のノウハウが生きて、可能性が広がって、仕事の量が増えたり、仕事の質が上がっていくのを目標にしていきます。

石山 OR→PのYouTubeチャンネルで毎週木曜日に動画を上げていく活動は、スタートしてから昨日(2019/2/7)でまる1年たったので、それを区切りとしてね。

土井 制作はもちろんやっていくんですが、もっと質の高い、業界の人の目に留まるような作品を作っていくのが目標です。

実はこの後、お二人に企画の提案もしたいと思っています。

CD それは楽しみです。特別審査員の山本憲司監督なんかは、キャスティングという部分で、皆さんをインスツトしていると思いますよ。

土井 お声がけいただいたら、万々歳です。

石山 僕らは覚えてもらってなんぼですもんね。



にちじょう (2018 日本)

夏休みを利用して、ある古民家で「お試し居住」を楽しむ一家。そこには、色々と世話を焼いてくれる別の「家族」がいて…「家族」の真実に気づいた後、その仲睦まじい姿に、温かな気持ちになれる作品です。

出演 薄井伸一・土屋直子・玉寄大樹・河西美季

石山和史・松下美優・土井克馬・古川あかり

撮影 土井克馬・玉寄大樹・石山和史

録音 武田良輔 編集 石山和史

監督・脚本 土井克馬

制作 映像制作チームOR→P



●優秀賞「TOO MATCH」制作者インタビュー

「実はこの後、お二人に企画の提案もしたいと思っています。」